

人間福祉研究第 16 号発刊にあたって

木村 敦子
Atsuko Kimura

広島文教女子大学に人間福祉学科が開設されて 18 年が経ち、平成 30 年 4 月には第 19 期の新生を迎えます。時折耳にする卒業生の様子等に鑑みると、これまで本学科が積み重ねてきた歴史の重みと責任を実感するようになり、身が引き締まる思いです。

今年度は平成 29 年 10 月 9 日（月）に本学にて人間福祉学会を開催しました。「就職して 1.2 年目の卒業生に色々話してもらおう！」というテーマで、就職後 1.2 年目の卒業生 4 名に児童福祉分野、障がい福祉分野、高齢者分野、医療福祉分野のそれぞれから仕事の葛藤ややりがい、ライフワークバランスなど、新人ならではの想いを語っていただきました。倫理的なジレンマを感じたり、専門職としての責任感から悩みながらもやりがいを見つけたり、日々学びながら頑張る様子が発表から感じられました。分野が違って、根底にある「援助観」が共通していることに、人間福祉学科での学びの成果を感じました。

総評は北星学園大学教授の中村和彦先生にお願いしました。中村和彦先生は、2004 年 3 月まで本学で教鞭をとっておられました。先生の変わらない福祉への熱い想いも拝聴することができました。

平成 29 年 8 月 5 日（土）には、雲南市で第 3 回島根ブロック大会を開催しました。今回は、本学と連携協定を結んでいる雲南広域連合との共催で、地元の将来を考えるフォーラム Ver.ふくし「どげすーの？in雲南 2017」と題し、雲南地域の福祉の現状を確かめ合い、現在と未来の担い手づくりの路を拓くことを目的に開催しました。

第 1 部では、島根県健康福祉部高齢者福祉課の小松原様より、現在の島根県の高齢化社会や担い手の状況等についてご講演いただきました。続いて、ソーシャルワーカーが幅広い分野で活躍していることやその役割等について、本学教授中村卓治先生の講演がありました。その後、現在活躍中の現場担当者 3 名に実践報告をしていただきました。第 2 部では、第 1 部登壇者のご協力のもと、住民や中高生等の質問や相談にこたえ、様々な情報提供を通じて交流を深めました。参加者にとっては、就職後の社会人となった自分の姿を具体的な形で思い描くきっかけを得る貴重な時間となりました。また、実践報告をした卒業生にとっても、今回の機会が、自らの成長につながったようでした。

このように人間福祉学会は、学びの場であり、同窓生とのつながりを持つ場でもありません。来年度も在學生、卒業生にとって実りある学会を開催していきたいと考えています。

前号より、人間福祉研究を電子ジャーナルとして、人間福祉学会のホームページを通してご覧いただくことになりました。ホームページでは、人間福祉学会のお知らせや国家試験対策に関するご案内など、卒業生の皆様へ向けのお知らせを中心にますます充実させていく予定です。是非ご覧いただくとともに、忌憚りの無いご意見をお寄せ下さい。本学会が学生や卒業生、教員の皆さまにとって、安心できる「心のよりどころ」としてますます充実するよう努めて参ります。皆様におかれましては、今後ともご支援賜りますようよろしくお願いいたします。